

平成21年度「やまなしの教育振興プラン」進行状況

担当課	平成21年度 現況値の公表時期	指標の概要	H19年度 の現況値	H25年度 の目標値	H21年度 の現況値	進捗率 %	実施状況（今後の取り組み）
義務教育課	H21年 8月	・「全国学力・学習状況調査」における「将来の夢や目標を持っている」の設問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合	小 86.7 % 中 73.0 %	小 90 % 中 80 %	小 89 % 中 75.3 %	69.7 32.9	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合が目標値に近づいてきているので、今後も児童生徒キャリア育成推進事業等を通じ、指導者の育成およびキャリア教育の充実を図っていきたい。
高校教育課	H21年度事業廃止	・「山梨県公立高等学校教育課程実施状況調査」における「将来の夢や目標を持っている」の設問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合	高 70.4 %	高 80 %	高 %		
高校教育課	H22年 3月	・就業体験を実施している高校の割合	高 65.6 %	高 80 %	高 62.5 %	-21.5	生徒減少・クラス数減少、経済不況による就職希望者の減少、意識の高い生徒のみの参加に変更、新型インフルエンザ流行などの影響で減少したと推察している。地域連絡会等を通じ、各校の取り組みを促し参加校を増やす。
高校教育課	H22年 3月	・企業等で実習体験をしている生徒の数	高 150 人	高 300 人	高 665 人	343.3	国「地域産業担い手育成事業」、県「ものづくり人材育成事業」の取り組みにより参加者数が増えている。
高校教育課	H22年 3月	・企業等の研修に参加した教員の数	高 162 人	高 180 人	高 185 人	127.8	国「地域産業担い手育成事業」、県「ものづくり人材育成事業」の取り組みにより参加者数が増えている。
義務教育課	H22年 8月	・「全国学力・学習状況調査」における「国語の授業の内容はよくわかる」の設問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合	小 81.8 % 中 72.1 %	小 90 % 中 80 %	小 85.1 % 中 75 %	40.2 36.7	小学校、中学校ともに目標とする値に近づいており、今後も学校訪問や教育課程説明会などを通して、教師への指導助言を続けていきたい。
高校教育課	H21年度事業廃止	・「山梨県公立高等学校教育課程実施状況調査」における「国語の勉強がどの程度分かるか」の設問に「よく分かる」「だいたい分かる」と回答した生徒の割合	高 57.7 %	高 70 %	高 %		
義務教育課	H21年 8月	・「全国学力・学習状況調査」における「算数（数学）の授業の内容はよくわかる」の設問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合	小 79.2 % 中 62.1 %	小 90 % 中 70 %	小 82.5 % 中 64.4 %	30.6 29.1	算数、数学とも、目標とする値に近づいてきており、今後も学校訪問や教育課程説明会などを通して、教師への指導助言を続けていきたい。
高校教育課	H21年度事業廃止	・「山梨県公立高等学校教育課程実施状況調査」における「数学の勉強がどの程度分かるか」の設問に「よく分かる」「だいたい分かる」と回答した生徒の割合	高 51.3 %	高 70 %	高 %		
高校教育課	H21年度事業廃止	・「山梨県公立高等学校教育課程実施状況調査」における「英語の勉強がどの程度分かるか」の設問に「よく分かる」「だいたい分かる」と回答した生徒の割合	高 45.5 %	高 60 %	高 %		
義務教育課	H22年11月	・学習指導要領に示された目標に沿った指導と評価を実践するために、各教科毎に学力を観点別にとらえた評価規準を整備している学校の割合	小 91.2 % 中 89.6 %	100 %	小 98 % 中 97.8 %	77.3 78.8	H19年度水準と比較すると、全体の整備状況特に中学校については改善されてきており、各校において着実に推進されているといえる。さらに個別に対応する中で完全整備を目標とした取組を推進して行きたい
高校教育課	H22年 3月		高 92.5 %		高 96.3 %	50.7	H19年度水準と比較すると、全体の整備状況は改善されており、各校において着実に推進されているといえる。今後も完全整備を目標とした取り組みを推進していきたい。

平成21年度「やまなしの教育振興プラン」進行状況

担当課	平成21年度 現況値の公表時期	指標の概要	H19年度の 現況値	H25年度の 目標値	H21年度の 現況値	進捗率 %	実施状況（今後の取り組み）
義務教育課	H21年 8月	・「全国学力・学習状況調査」における「学校の授業時間以外に普段、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしていますか」の設問に「全くしていない」と答えた児童生徒の割合	小 3.6 % 中 9.3 %	小 2 % 中 5 %	小 3.5 % 中 8.7 %	6.3 14	小学校に関しては若干減少しているがほぼ同じ値である。中学校に関してはやや減少しているが、まだ目標までは差がある。家庭学習の充実、学習習慣の確立等を含む「学力向上プログラム」（H22策定）を普及することを通して、県下児童生徒の学習時間向上を図っていききたい。
高校教育課	H21年度事業廃止	・「山梨県公立高等学校教育課程実施状況調査」における「学校の授業以外に、1日だいたいどのくらい勉強しますか」の設問に「全く、または、ほとんどしない」と答えた生徒の割合	高 28.2 %	高 15 %	高 %		
義務教育課	H21年 8月	・「全国学力・学習状況調査」における「総合的な学習の時間の勉強は好きですか」の設問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童生徒の割合	小 82.4 % 中 68.5 %	小 90 % 中 80 %	小 82.1 % 中 71.5 %	-3.9 26.1	小学校に対しては、「総合的な学習の時間」が好きと感じる児童が増えるよう、教育課程説明会や『教育課程指導資料』を通して、よりよい授業実践例を学校現場に提供していききたい。中学校に対しては、より目標値に近づけるよう、浅川中等の先進的な取り組みを、学校現場に紹介していききたい。
高校教育課	H22年 6月	・教員や生徒により小中学生への授業等を実施している高校の割合	高 62.1 %	高 80 %	高 58.6 %	-19.6	有一無、無一有の変化があったが1校分減少してしまった。相手先の中学校の選定や、予定に左右されているようである。過去2年で無の学校数は11校であるので、積極的な活用を呼びかけたい。
義務教育課	H21年 8月	・「全国学力・学習状況調査」における「学校のきまりを守っている」の設問に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合	小 88.8 % 中 87.1 %	小 % 中 90 %	小 91 % 中 89.5 %	183.3 82.8	小学校については、目標値に到達し、中学校も大幅に向上しているため、今後も維持・向上できるように、「やまなし」心づくりに推進運動で取り組みを呼びかけていく。
高校教育課	H21年度事業廃止	・「山梨県高等学校教育課程実施状況調査」における「学校の規則を守っている」の設問に、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒の割合	高 85.2 %	高 %	高 %		
義務教育課	H22年 4月	・道徳の授業を地域住民や保護者に公開している学校の割合	小 34.8 中 27.1	70 %	小 44.5 中 39.8	27.6 29.6	平成19年度と比べると、小・中学校とも公開している学校が増えているので、今後も推進運動を継続して行い意識化を図っていく。
義務教育課	H21年 8月	・「全国学力・学習状況調査」における「人が困っているときは、進んで助けている」の設問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合	小 82.4 % 中 77.6 %	小 % 中 90 %	小 83.6 % 中 79.9 %	15.8 18.5	小・中学校とも目標値に近づいてきてはいるが、達成には至っていない。「やまなし」心づくりに推進運動の調査項目に、新項目として設置することで、各小・中学校における取組意識の高揚を図る。
義務教育課	H21年度調査項目から削除	・「全国学力・学習状況調査」における「海、山、湖、川などで遊んだ経験がある」の設問に「何度もあった」「時々あった」と回答した児童の割合（小学校） ・「全国学力・学習状況調査」における「海、山、湖、川などに行って、自然の素晴らしさを感じた経験がある」の設問に「何度もあった」「時々あった」と回答した生徒の割合（中学校）	小 84.8 % 中 86.4 %	小 % 中 90 %	小 % 中 %		
高校教育課	H21年12月	・文化部の活動を充実させるために行われている高校芸術文化祭への参加者数	18,416 人	20,000 人	19,238 人	51.9	山梨県高等学校芸術文化祭への参加生徒数は増加傾向にある。今後は更に各部門への参加を促進したり、芸術文化祭に関わる行事の支援をおこなっていく必要がある。

平成21年度「やまなしの教育振興プラン」進行状況

担当課	平成21年度 現況値の公表時期	指標の概要	H19年度 の現況値	H25年度 の目標値	H21年度 の現況値	進捗率 %	実施状況（今後の取り組み）
義務教育課	H22年9月	・「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」における公立学校の「いじめの認知件数」	小 251 件	小 200 件	小 77 件	341.2	平成19年度と比較すると、着実に成果を上げ、小・中学校ともに減少している。さらにこの減少の流れを定着させるため、未然防止の取組を推進していきたい。
高校教育課	H22年9月		中 319 件	中 230 件	中 284 件	39.3	
義務教育課	H22年 8月	・「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」における公立学校の「不登校児童生徒」の人数	小 188 人	小 160 人	小 124 人	228.6	平成19年度と比較すると、着実に成果を上げ、小・中学校ともに減少している。さらにこの減少の流れを定着させるため、未然防止の取り組みを推進していきたい。
高校教育課	H22年11月		中 995 人	中 700 人	中 753 人	82	
義務教育課	H22年9月	・「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」における公立学校の「暴力行為」の件数	小 6 件	小 3 件	小 4 件	66.7	平成19年度と比較すると、小学校では減少、中学校では逆に増加している。しかし、H20年度からは減少しているので、さらに積極的な取組を進める中で、発件数を抑えていきたい。
高校教育課	H22年9月		中 135 件	中 90 件	中 196 件	-135.6	
義務教育課	H21年 8月	・「全国学力・学習状況調査」における「家や図書館で、普段、1日あたりどれくらいの時間、読書を読みますか」の設問に「全くしない」と答えた児童生徒の割合	小 15.4 %	小 10 %	小 15.5 %	-1.9	小学校は昨年度とほぼ同じ。中学校はやや減少したが、引き続き不読者を減らす取り組んでいく。具体的には、国語力向上のために継続している「言語環境づくりプログラム」における「読書生活の充実」のための取り組みをとおして、県下小・中学校への指導を行っていきたい。
			中 32.5 %	中 20 %	中 31.1 %	11.2	
高校教育課	H21年度事業廃止	・「山梨県公立高等学校教育課程実施状況調査」における「学校の授業以外で1日だいたい、どのくらい読書を読みますか」の設問に「全く、または、ほとんどしない」と答えた生徒の割合	高 50.5 %	高 30 %	高 %		
スポーツ健康課	H22年 1月	・「山梨県新体力テスト・健康実態調査」で授業以外で週3日以上運動・スポーツを実施している小学生（5・6年生）の割合	小 48.2 %	小 65 %	小 47.9 %	-1.8	進捗率はマイナスであるが平成20年度と比べ若干伸びている。各研修会や講習会等で、「運動をする子とそうでない子の二極化、女子の値の低さ」を大きな課題として周知し、運動をしない子、したくてもできない子に対して運動をする機会や場を提供するなど、関係機関と連携しながら推進していく。また、時間・空間・仲間の「三間づくり」も引き続き推進していく。
スポーツ健康課	H22年 1月	・「山梨県新体力テスト・健康実態調査」で小学生（5年生）のボール投げの平均値のピーク時（昭和56年）の値に対する割合	小 81.7 %	小 90 %	小 80.7 %	-12	平成17年度から、全県的な新体力テストの実施や一校一実践運動の取り組み等により、体力に関する関心も高まっている。今後も学校や関係機関と連携を図りながら、継続して取り組んでいく。
スポーツ健康課	H22年 4月	・薬物乱用防止教室を実施している学校の割合	中 29.2 %	中 60 %	中 42.4 %	42.9	実施校の割合は年々増加しているため、引き続き取り組みを進めていく。
			高 87.5 %	高 100 %	高 97 %	76	
スポーツ健康課	H22年 1月	・「山梨県新体力テスト・健康実態調査」で児童生徒が朝食を摂取している割合	小 91 %	小 95 %	小 92.1 %	27.5	平成17年度から、全県的な健康実態調査の実施や一校一実践運動の取り組み等により、健康に関する関心も高まり広がっている。今後も機会あることに啓発活動等を行い、継続して取り組んでいく。
			中 84 %	中 90 %	中 86.4 %	40	
			高 78.3 %	高 90 %	高 80.8 %	21.4	

平成21年度「やまなしの教育振興プラン」進行状況

担当課	平成21年度 現況値の公表時期	指標の概要	H19年度 の現況値	H25年度 の目標値	H21年度 の現況値	進捗率 %	実施状況（今後の取り組み）
スポーツ健康課	H22年 5月	・食に関する指導全体計画を作成している学校の割合	小 64.2 % 中 53.8 % 高 10.2 %	100 %	小 84.4 % 中 71.7 % 高 24.1 %	56.4 38.7 15.5	作成済学校の割合は増加しているが、高等学校の割合が低いので、取り組みを強化していく。
新しい学校づくり推進室	H22年 3月	・一人ひとりの児童生徒の障害の状態や発達段階等に応じた学習指導を行うための「個別の指導計画」を作成している小中学校の割合	小 57.2 % 中 39.8 %	70 %	小 79.9 % 中 73.3 %	177.3 110.9	小中学校ともにH25年度の目標値を上回っており、理解促進が図られている。教育課程説明会等を通じて作成内容の充実を図るとともに、対象となる全ての児童生徒について作成を進める。
新しい学校づくり推進室	H22年 3月	・一人ひとりの児童生徒の教育的ニーズに応じ、関係機関が連携して適切な指導及び必要な指導を行うための「個別の教育支援計画」を作成している小中学校の割合	小 46.2 % 中 35.7 %	70 %	小 78.4 % 中 73.4 %	135.3 109.9	小中学校ともにH25年度の目標値を上回っており、理解促進が図られている。今後、担当者研修会等を通じて作成内容の充実を図るとともに、対象となる全ての児童生徒について作成を進める。
新しい学校づくり推進室	H22年 4月	・県立特別支援学校高等部の新卒生徒の就職割合	14.6 %	20 %	19.2 %	85.2	H19に比較して増加しており、軽度の知的障害者等に対する進路指導の成果が伺える。今後も、新規職場開拓に取り組むとともに、関係機関と連携しながら進路指導、就労支援を進める。
義務教育課	H22年 3月	・省エネ・省資源活動等に取り組んでいる学校の割合	小 87.8 % 中 84.4 %	100 %	小 96.5 % 中 93.5 %	71.3 58.3	平成19年度と比べると、小・中学校とも取り組んでいる学校が増えている。今後も省エネ・省資源活動の推進を図っていききたい。
高校教育課	H22年 3月		高 75.9 %		高 96.6 %	85.9	
高校教育課	H22年 3月	・福祉の心を培い、福祉の実践力を高めるための福祉教育に取り組む高校の割合 ※ 小・中は100%達成済	高 92 %	高 100 %	高 100.0 %	100	何らかの福祉教育を実施している高校は100%となった。今後は、様々な内容での実践的活動を含む福祉教育の実施率を高めていくように促す。
義務教育課	H22年 9月	・コンピュータや提示装置等を活用して指導する能力を持つ教員の割合	小 56.8 % 中 56.3 %	小 70 % 中 70 %	小 58.2 % 中 56.4 %	10.6 0.7	情報機器の整備が進んだことにより、すぐに利用できる学校が増えたことから、主に小学校の数値が増加している。今後も学校の情報化を働きかけていきたい。
高校教育課	H22年 9月		高 64.3 %	高 80 %	高 63 %	-8.3	
高校教育課	H22年 6月	・大学教員による授業を取り入れている高校の割合	高 69 %	高 80 %	高 62.1 %	-62.7	有一無、無一有の変化があったが1校分減少してした。県外大学の利用により、県内分集計にならなかったものもある。過去2年間無の学校数は6校であり、内訳は、農業系2、工業1、普通3である。今後は、積極的活用を呼びかけたい。
義務教育課	H22年 2月	・教育活動に係る自己評価に対する学校関係者評価を実施・公表している学校の割合	小 39.9 % 中 43.8 %	100 %	小 73.4 % 中 75 %	55.7 55.5	学校の教育の質の保証・向上のために法整備された学校評価制度の理解が進み、実施率が増加している。今後も実施率の向上させていきたい。
高校教育課	H22年 6月		高 71.7 %		高 96.8 %	88.7	
義務教育課	H22年 2月	・保育所や幼稚園との交流活動を年に3回以上行った小学校の割合	小 39 %	小 60 %	小 48 %	42.9	交流活動を年間予定に位置づけて進む学校が増えてきている。引き続き、研修会等で継続した取り組みを促していきたい。

平成21年度「やまなしの教育振興プラン」進行状況

担当課	平成21年度 現況値の公表時期	指標の概要	H19年度の 現況値	H25年度の 目標値	H21年度の 現況値	進捗率 %	実施状況（今後の取り組み）	
高校教育課	H22年 3月	・乳幼児とのふれ合い体験を実施している高校の割合	高 79.3 %	高 100 %	高 86.8 %	36.2	全日制高校では96.6%の実施率である。定時制高校の実施率を高めていくように促す。	
社会教育課	H22年 3月	・様々な知識や技能を持つ地域住民が学校や家庭、地域に貢献できるための仕組みづくりに取り組んだ市町村の割合	0	100 %	62.9	62.9	H20年度からの取り組みとして、県下全市町村へ学校を支援する仕組みが整備されるよう鋭意努めており、計画を上回る進捗状況にある。	
義務教育課	H22年 9月	・学校のホームページで情報提供を行っている学校の割合 ※ 高校は100%達成済	小 62.2 % 中 60.2 %	80 %	小 78.6 % 中 68.1 %	92.1 39.9	各市町村のインフラ整備の格差もあるが、小学校はほぼ目標達成に近づいた。中学校に關しても順調に伸びていると考えられる。	
生涯学習文化課	H22年 4月	・「やまなしまなびネットワークシステム」で提供している学習機会や人材等の学習情報へのアクセス件数	836,370 件	1,000,000 件	826,063 件	-6.3	H19年度と比較すると、アクセス件数は減少しているものの、提供情報総数は増加しており、今後も情報更新及び普及啓発に努めていく。	
生涯学習文化課	H22年 4月	・県、市町村、大学、民間団体等が連携し、多様な学習機会を提供する「キャンパスネットやまなし」に入学した人の数（累計）	3,098 人	5,000 人	3,943 人	44.4	H21年度は486人の入学者となっている。今後も制度について周知を図り、入学者の増加に努めていく。	
生涯学習文化課	H22年 4月	・「キャンパスネットやまなし」において所定の単位を取得し、奨励賞を交付された学習者の数（累計）	1,154 人	2,300 人	1,763 人	53.1	H21年度は289人に奨励賞を交付した。今後も学習活動への取り組みを働きかけるとともに、制度の周知に努めていく。	
社会教育課	H22年 3月	・様々な知識や技能を持つ地域住民が学校や家庭、地域に貢献できるための仕組みづくりに取り組んだ市町村の割合	0	100 %	62.9	62.9	H20年度からの取組として、県下全市町村へ学校を支援する仕組みが整備されるよう鋭意努めており、計画を上回る進捗状況にある。	
スポーツ健康課	H22年 3月	・いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができるよう、総合型地域スポーツクラブを設置している県内市町村の割合	53.6 %	100 %	81.5 %	60	平成21年度新たに5クラブが創設され、これまでの設立済み市町村は11市3町1村となっている。平成22年度には5クラブ、平成23年度には4クラブが創設される見通しである。未設置の市町村への訪問等による働きかけを行っていき、平成25年度までには実質設置率100%を目指す。	
スポーツ健康課	平成21年度調査なし	・週1回以上スポーツを実施している成人の割合	32.4 %	50 %	%	%	H21年度調査は実施していない。総合型地域スポーツクラブ設置数及び設置率の拡大に取り組む中で、気軽にスポーツに親しめる環境づくりを行い、目標達成に向けスポーツ実施率を高めていく。	
スポーツ健康課	H21年10月	・国民体育大会における個人、団体の上位8位以内の入賞数	83	100	80	人・団体 人・団体	-17.6	平成19年度に比べ、少年種別は増加したが、関東ブロック大会を突破できなかったことが原因で成年種別が減少した。今後も一貫指導体制を充実して、少年から成年への強化支援をしていく。
スポーツ健康課	H21年 8月	・選手、指導者がアンチ・ドーピングへの意識啓発のための講習会に参加している県内競技団体の割合	70 %	100 %	70 %	0	平成19年度と参加競技団体数は同じだが、平成19年度とは異なった団体が参加している。今後は全競技団体が参加するような講習会のあり方と募集の方法を検討する。	

平成21年度「やまなしの教育振興プラン」進行状況

担当課	平成21年度 現況値の公表時期	指標の概要	H19年度 の現況値	H25年度 の目標値	H21年度 の現況値	進捗率 %	実施状況（今後の取り組み）
スポーツ健康課	H22年 3月	・トップレベルの競技者の養成・確保のための一貫指導体制を確立している競技団体の割合	55 %	100 %	55 %	0	平成19年度から平成21年度までは、40競技団体中22競技団体での確立を目指してきた。平成22年度からは、40競技団体が取り組めるよう支援していく。
生涯学習文化課	H22年 5月	・県民文化ホールで開催した主催事業への入場者数	17,951 人	20,000 人	26,796 人	431.7	H21年度から指定管理者が変わり、自主事業の数が増加、特に県民参加型の事業が増えたため、入場者数の増となっている。今後も魅力ある事業を企画し、入場者の増加に努めていく。
義務教育課	H22年 4月	・県立博物館と連携して教育活動を行っている学校の割合	小 40 %	50 %	小 43.2 %	32	ティーチーズクラブ会員を増やすことで、教員に対する意識付けを今後も積極的に行い、生徒に還元できる体制づくりを続けていく。
高校教育課	H22年 3月		中 34 %		中 35.8 %	11.3	
生涯学習文化課	H22年 4月	・県民の文化芸術活動の発表及びその鑑賞の場である県民文化祭への参加者数	218,973 人	222,000 人	241,806 人	754.3	H19年度と比較すると、来場者数が約2万人増加した。今後も引き続き参加者の増加に努めていく。
学術文化財課	H22年 3月	・県内の国・県指定文化財の件数	660 件	690 件	667 件	23.3	市町村教育委員会と新規指定物件の掘り起こしをして、計画的な文化財指定を進める。